

令和3年度第2回 岡山県スポーツ推進審議会の議事概要

【開催概要】

- 日 時 令和4年2月21日（月）10:00～11:50
- 会 場 オンライン（Web会議システム Zoom を使用）
- 出席者 <委員（五十音順）>
米谷会長、赤木委員、居原田委員、上田委員、小川委員、
坂本委員、泉水委員、長尾委員、松井委員、松本委員、三村委員
※委員15人中11人の出席であり、本審議会は成立
<事務局>
環境文化部：佐藤環境文化部長、有田文化スポーツ振興監、
河本マラソン事務局参与、宮野スポーツ振興課長
保健福祉部：小寺障害福祉課長
教 育 庁：山本保健体育課長

1 開 会

2 あいさつ

○環境文化部長あいさつ

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、現在も、各種大会の延期や縮小、部活動の自粛など余儀なくされているところであるが、スポーツ庁が実施した調査によると、感染拡大前後における国民の運動・スポーツの参画に関する意識の変化は、運動を実施する意欲が増加した割合が低下した割合を上回る結果が出ている。オリ・パラ等をきっかけとしてスポーツへの関心も向上しており、スポーツは、わたしたちの生活に必要なものであると改めて感じる場所である。
- ・本県でも、就実高校の高校バレーでの連覇や、アイスダンス小松原ペアによる北京オリンピックでの団体メダル獲得など明るいニュースが続いている。
- ・県としては、今後とも、スポーツの力で地域を元気づけられるよう一層のスポーツ振興に取り組んで参りたい。

3 議 事

※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。

（1）令和4年度スポーツの推進に係る主な事業について

資料1 P. 1～9

■事務局説明（スポーツ振興課長、障害福祉課長、保健体育課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

①予算規模について

(会長)

- ・改修工事など、年度で変動するものもあるが、全体の予算枠については今年度と来年度とは同規模と考えてよいか。

(スポーツ振興課長)

- ・東京オリンピック・パラリンピックに関する予算については、大会の終了とともに減少しているが、その他の事業に係る予算については大きな変更はない。

②体育授業力アップモデル校事業（P 6）について

(委員)

- ・モデル校を6校指定してもらっているが、取り組んでいる各校から、指導に取り組む若い教員の意欲が高まったとの報告を受けている。事業の成果としてお伝えしたい。

③地域部活動推進事業（P 7）について

(委員)

- ・中学校の校長会等と話をする機会があるが、なかなか進め方が難しいという声を聞く。具体的な課題やよい進め方など情報があればお聞かせいただきたい。現場にフィードバックしたい。

(保健体育課長)

- ・令和2年9月に、令和5年度以降に休日の部活動を段階的に地域へ移行していくという国の方針が示されて以降、県においても、当課とスポーツ振興課が連携しながら研究を進めているところである。その中で、先日、スポーツ庁の担当室長に来岡いただいた。国においても検討会を組織し、様々な課題を研究しているところであり、今年の5月を目途にそれらをまとめた提言を示すとのことだった。
- ・岡山県においては、赤磐市の磐梨中学校、早島中学校、そして合同部活動については高梁市内の3つの中学校をモデル校として取り組んでいる。
- ・少子化が進む中、国全体のスポーツ振興に大きな役割を果たしていた学校での部活動がこれまでどおりの形では維持が難しくなっている。特に集団種目では、部員そのものが足りず活動が行えない状況となってきた。子どものスポーツ環境を考えると、今まで学校にあった活動の場の継続が難しいのであれば、地域において、活動できる場・環境を整えていく必要がある、というのが国の考えである。
- ・令和5年度から、一斉に学校から地域へ「場」を移すのではなく、まずはできるところからやっていく、というような段階的な移行ができるよう、どのような形がよいか検討しているところである。

- ・地域に移行するにあたっては、①チームや場所という受け皿としての環境づくり、②教員に代わる指導者の確保、③指導者への謝金など活動に必要な財源の確保、④大会のあり方など様々な課題がある。5月の国の提言を待ちつつ、他県の事例も参考にしながらモデル校を中心に研究していきたい。

(委員)

- ・部活動の地域移行の受け皿の一つとして、総合型地域スポーツクラブが挙げられており、県スポーツ協会との合同の研修会などを通じて研究しているところだ。現時点では、県においてモデル的な取組をされているが、やはり、一番地域に近い市町村がどれだけ関われるか、動けるか、ということが大事だと考える。先ほど指導者の確保や環境づくりなど課題を挙げていただいたが、市町村の担当者がきっかけを作って動いてく必要がある。
- ・クラブによって、受け皿になれるクラブとそうでないクラブがある。
- ・明日、総合型地域スポーツクラブの全国総会があるが、学校運動部活動との連携について意見交換が予定されている。総合型地域スポーツクラブの全国総会においても話題の中心となっている。

(会長)

- ・モデル校の進捗状況や総合型地域スポーツクラブ全国総会での意見交換の内容など、今後も情報提供をお願いしたい。先日、スポーツ庁の係長からも直ちに移行するものではなく、10年後くらいを見据えて、課題を見つけ、研究していく、とう発言があり、段階的に検討していく課題であると認識している。

④部活動指導員配置事業（P7）について

(会長)

- ・部活動指導員の数は運動部活動の人数か。

(保健体育課長)

- ・文化部も含めた数であるが、大半が運動部である。県立学校配置数17人のうち文化部は2人。市町村立については詳細を把握していないが、あまり多くないと承知している。

⑤「体力・運動習慣づくりの推進」（P6）について

(委員)

- ・「体力アップ・マイベストチャレンジ!」「いきいき岡山っ子☆運動習慣カード」「みんなでチャレンジランキング」いずれもとてもよい取組である。運動嫌いの子を作らないようにすること、身体を動かす習慣を作ることが大切である。
- ・競技力のある先輩を見れば自ずと下の世代も育っていくが、子どもの心の中に「自分もできる」という達成感が育つことが大事である。子どもが生

き生きとスポーツに取り組める環境を作る必要がある。これらの事業はよい取組であるので、大胆に予算をとってもらいたい。

- ・ 県が声を上げることも大切だが、まず、市町村の担当が動くことが必要である。密接に地域で関わっていく人材を育てていく必要がある。

(保健体育課長)

- ・ 応援のお言葉をいただきありがたい。まさしく、子ども達に「ぼくにもできた」「わたしにもできる」という成功体験を得てもらいたいという趣旨の事業である。新体力テストはA～Eの評価があり、岡山県では全国でもまれな取組として、A評価の子どもにバッジを進呈しており好評を得ている。このように、スポーツの得意な子が評価されることは従来からあったが、「マイベストチャレンジ」については、得手不得手に関わらず自分のレベルに応じて、去年の自分に比べてどのくらいできるようになったか、という各自が設定した目標を達成することができたか否かでマイベストバッジを進呈する事業である。目標達成率は今のところ3割となっているが、これは子ども達自身が目標設定するとどうしても得意な種目で目標を定めてしまい、伸びしろが少ないためといったことがある。教員が関わり、後押しすることで苦手な種目をうまく伸ばして成功体験を増やしていきたいと考えている。
- ・ 今後も工夫して予算を確保し、関係機関と連携しながら事業を実施していきたい。

(委員)

- ・ 現場でも、子どもの心に響くように教員がうまく後押しをしていきたい。

(委員)

- ・ バッジを目標にがんばるというのは子どもの意欲を伸ばすよい取組であると報告があったが、一方で、バッジという目に見える形は「他者による評価」でもある。自分自身の目標を決めて目指す中で、どのように変わったか、何をどうがんばったのか、そのことについて自分が今どう考えているかという事前の目標と事後成果の心の変化を意識した自己評価も大切である。子ども達の成長の過程で、自己評価能力を高めていくことは大事なのではないか。

(保健体育課長)

- ・ 自己評価による達成感を高める視点についても、より明確になるようさらに意識して施策展開に努めたい。

⑥ 体育授業スペシャルサポーター派遣事業（P6）について

(委員)

- ・ 器械体操など特殊な競技の指導者については、県南では確保できても、県北では指導者も高齢化しており、確保が難しくなっている。県南から派遣するにしても、遠方であるためかなりの旅費もかかってしまう。予算の確

保にあたってはそういった地域の特性に配慮してもらいたい。

(保健体育課長)

- ・ご意見のとおり、地域の特性については考慮する必要がある。幸い、岡山県においては、教員養成系を含む大学がたくさんあることが強みとなっており、県北においても当該地域の大学の学生に派遣依頼するなど工夫しているところである。今後も工夫を凝らしながら充実させていきたい。

(2) 令和3年度スポーツ団体への補助金について

資料1 P.10~12

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・資料に沿って説明

■質疑等

①予算規模等について

(会長)

- ・事業内容、予算額については令和3年度に準じたものという理解でよいか。

(スポーツ振興課長)

- ・そのとおりである。

(委員)

- ・例年同様の事業内容であるが、事業実施団体の一つとしては、事業の質を高めて行きたいと考えている。

(委員)

- ・様々な補助金があるが、スポーツ選手を育てていくにはいずれも必要なものである。もっと予算があってもいいくらいだと考えている。

(会長)

- ・競技スポーツと生涯スポーツというのは、スポーツ振興の両輪であり、密接に関わりがある。競技スポーツが活発になることで、生涯スポーツに関わる県民の増加も期待できる。引き続き事業への取組をお願いしたい。

②アスリートのステップアップ支援事業（P11）について

(会長)

- ・具体的にどのような種目を実施しているか。

(スポーツ振興課長)

- ・過去の実績では、カヌー、ボート、飛び込み、セーリングなど、その競技単体ではなかなか間口を広げることが難しい種目の合同体験会を実施している。体験会に参加した小学生や中学生が実際にその競技の道に進むなど、一定の成果が上がっており、今後もしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

③スポーツ推進スタッフの配置（P11）について

（委員）

- ・スタッフ人件費ということだが、メディアへの露出や親子サッカー教室の広報などよく目にするが、具体的にどのような情報発信や交流促進を行っているか。

（スポーツ振興課長）

- ・このスタッフは湯郷ベルで活動している選手を想定しており、選手やチームの活躍を通じて、岡山のスポーツを盛り上げる意図があるものである。具体的には、地元小学生との交流や、県が実施する県民応援デーと連携した情報発信など担っている。

4 フリーディスカッション **資料2**

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・昨年度から実施している。結論や方向性を絞るものではなく、多角的な意見をいただき、スポーツ推進計画を進めるにあたり参考にさせていただくものである。例えば、昨年度はコロナの影響下におけるスポーツ活動の感染対策について議論していただいたが、その後、コロナ対策室との連携を強化しながら、各スポーツ団体への助言を強化するなど、いただいたご意見は、本県の施策推進に大いに役立っているものである。
- ・今回は、来年度に策定を予定している次期スポーツ推進計画に向けて、様々なご意見をいただければと考えている。

■フリーディスカッション

（会長）

- ・現計画の4つの柱を次期計画も踏襲し、具体的な施策について今後5年間の目指すべき姿に対応するものとしたいとの方針が示されているがいかがか。

（委員）

- ・4つの柱のうち、「生涯スポーツの振興」と「スポーツによるまちづくり」の部分についてだが、その2つを担う地域スポーツの現状が令和4年度から大きく様変わりするのではないかと予想される。
- ・まずその1つとして、総合型地域スポーツクラブは令和4年度から登録・認証制という新しい制度が始まる。現在、県内に44あるクラブのうち、どれだけのクラブが煩雑な手続きを経て総合型として登録をするのか。登録料5,000円を支払ってまで登録するメリットが見えてこない上に登録しないデメリットもない、という状況でのスタートとなる。
- ・2点目としては先ほども話題となったが、部活動の地域移行がどうなるのか。スムーズに移行できるか懸念がある。

- ・また、スポーツ少年団も総合型地域スポーツクラブと連動した登録制になるのでは、という話も出ている。地域スポーツを担うそれらのあり方が大きく変わろうとしている状況の中で、生涯スポーツの振興や、スポーツによる地域活性化をどのように推進していくか、なかなか難しい課題である。この状況の中で、市町村がどう関わっていくか、どれだけ理解と関心を示すか、それがうまくいけば、スポーツによるまちづくりに繋げていくことができると考えている。

(会長)

- ・委員のご指摘に加えて、スポーツ推進委員はもちろん市町村の体育協会等も含めて地域における生涯スポーツの推進の枠組みは検討されなければならないと考える。

(委員)

- ・国のスポーツ基本計画の中には「スポーツ推進委員の有効活用」と掲げられており、推進委員は地方公共団体と地域住民とのコーディネーター役として重要視されている。基本計画では、スポーツ推進委員の認知度が低い、なり手がいないなど課題も指摘されているが、一方で 48.8%の推進委員が既にコーディネーターとしての役割を果たしているというデータもある。これからの推進委員の役割として、新しい生活様式の中でいかに安全安心なスポーツ・運動の機会を地域住民に提供することができるか、コーディネーターが市町村をいかに動かしていけるかが重要視されていると感じている。スポーツ推進委員の資質向上に努めていかなければならない。

(会長)

- ・今いただいたご意見は、次期計画の4つの柱全てに関わってくると思われる。是非盛り込んでいただければと期待する。

(委員)

- ・障害者スポーツについては、まず、実施している人数が少ないという問題がある。そのため、障害の有無に関わらず一緒に活動できる地域の方が欲しい。環境づくりとしては、まずは多目的トイレの設置、段差の解消などユニバーサルデザインを意識した施設の整備をお願いしたい。
- ・先ほど、スポーツ推進委員についてご意見がでたが、推進委員には日本パラスポーツ協会が認定する障害者スポーツ指導員の資格をとって地域で活動していただいている方もいる。この数を増やしていき、今後も地域で共存し、一緒に活動できたらと考える。

(会長)

- ・多様な主体が参加できる場づくりというのは、次期計画に必要な要素である。そのためには、ハード面、ソフト面両面から取り組む必要がある。

(委員)

- ・新型コロナウイルス感染症のまん延によって、様々な場面でのオンライン化が進んだが、地域や学校のスポーツ活動において、よい取組や事例があれば情報提供して欲しい。身体を動かす機会はコロナ以前に比べて減っているが、各種メディアやオンラインをうまく使うことで、課題の解決に繋がればよい。

(会長)

- ・国のスポーツ基本計画のキーワードにもDX化は挙げられている。取組の端緒として、まずは活用事例を知っていただくこと、そしてそれを広げていくことを次期計画に盛り込んでいただければと考える。

(委員)

- ・社会の課題として少子高齢化が顕著に進んでいる。部活動の問題にしても、岡山市、倉敷市のような人口の多い市とその他の市町村では温度差がある。人口の少ない市町村においては、できる部活動が既に限られてきている。子ども達が本当にしたいスポーツができないという、活動の選択肢が狭まっている状況が現実のものとなっている。どのように課題解決するかしっかり議論していく必要がある。

(会長)

- ・一律の施策ではなく、地域の特性に合わせて対応していく必要があるとのこと意見に賛同する。事務局には、全国の事例など情報収集し、学校などで発信していただければと思う。

(委員)

- ・現計画の数値目標について、「成人の1日あたりの歩数」について、よく、1日1万歩と言われているのに対して、目標設定が少し低いのではという印象がある。

(スポーツ振興課長)

- ・確かに、一般的には1日1万歩とも、健康のためには8,000歩とも言われる。この数値目標は5年に1度実施される健康調査に基づいて設定された目標値である。今後、次期計画の目標設定を考える中でどのあたりが妥当なのか検討していきたい。

(委員)

- ・目標設定については、どのラインを目標に定めるか様々な考え方があがる。例えば、楽に達成できる数値を目標値と掲げておいて、それを大きく越えることが本当の目標である、というのも一つの考え方である。策定までに議論していけばと思う。
- ・数値目標については、まず、単に数値目標を達成できたか否かではなく、①目標を超えている項目はどういった要因によってその結果がもたらさ

れたのか、②目標を超えることで県民生活のどのようなことが良くなったのか、これまでの検証と分析を行うことが重要だ。例えば、スポーツ実施率は高いに越したことがないわけだが、高いとどんなよいことがあるのか、例えば幸福度が増したとか寿命が延びたとか、検討することが大事である。県民の姿として求めるものが、数値目標を通して盛り込まれると、目標に向かって何をがんばればよいのかクリアになる。

- ・次期計画の期間については、10年先の状況があまりに見通せない社会の状況であるので、5年間とする事務局の案に賛成である。

(会長)

- ・数値目標については、コロナの影響下において、測定が困難であったり、低下したりしているものもある。2019年度以降指標となる最新数値が算出でき難い項目もあることから、どのような形で現状を検証していくか困難なところであるが、工夫を凝らして策定に向けた提案をお願いしたい。また、来年度は審議会が3回開催されるということで、それぞれの委員の立場からのご意見をいただきたい。

5 報告事項 資料3

(1) おかやまマラソンについて

- 事務局説明（マラソン事務局 参与）
資料に沿って説明

(2) 国民体育大会岡山県選手団の成績について

- 事務局説明（スポーツ振興課長）
資料に沿って説明

6 閉会

○文化スポーツ振興監あいさつ

- ・本日は貴重な意見を頂戴し、感謝申し上げます。
- ・次回の審議会では、本日議論していただいたご意見を元に、次期計画の骨子案をお示しできるよう着実に準備を進めて参りたい。